

敵は自分自身である

大石 佳香 (単位制3年相当生)

私は小学校3年生から柔道を始めました。もともと体を動かすことが大好きだった私は、柔道を始めてすぐの大会で2位になり、県大会へ出場しました。そこでは3位入賞を果たすなど、中学校を卒業するまでの6年間は自信で満ち溢れていました。しかし、高校生になると周りは強い人ばかりで、練習や試合では全く力が通用せず、思い通りの結果は出せず、月日が経つにつれ、心身ともに落ち込んでいくばかりでした。そんなある日、練習試合中に腰を痛めてしまい、痛みをかばうばかりで練習には熱が入らず、だんだん柔道が嫌いになっていきました。通院を理由にして、練習を休んでいた私は、「こんな思いをするくらいなら、柔道なんてやめてしまいたい。」と思い、母親に相談を持ちかけましたが、母親からの言葉は、「このまま逃げるの？」それだけでした。生まれてすぐに父親を亡くした私を、女手一つで育ててくれた母親はいつも私の味方でいてくれたのに、こんな裏切り方をしていいのか、と自分自身にとっても腹が立ちました。その日からどんなに痛くても、どんなに辛くても、毎日休まず柔道の練習に励みました。次第に、練習も楽しくなり、大会では少しずつ結果が残せるようになりました。ですが、その自信は一瞬で崩れ去ったのです。「これ以上、柔道を続けることは困難です。」半年たったある日、練習試合を終え、肩に違和感を覚えた私が、後日病院へ行きお医者さんに言われた言葉です。診断結果は肩鎖関節脱臼、そして、ドクターストップがかかったのです。私はショックで、柔道を見ることも嫌になり、学校へ行く足も遠ざかっていきました。大好きだった柔道ができなくなったことの悔しさ、怪我に勝てなかった自分自身の弱さに対する失望感、全てが私に重くのしかかりました。そんな私を見て、母親が「高校だけは卒業してほしい。」と福智高等学校通信制を勧めてくれました。最初は渋々通うことを決めたものの、新しい友達が出来て、勉強もわかりやすく、学校へ通うの年に数えるほど、私にとって、とても居心地のいい場所となりました。

そんなある日、友人が私を高校野球観戦に連れて行ってくれました。野球なんて……そう思っていたのですが、一瞬で私の心は奪われてしまいました。一人ひとりが声を出して協力し合う姿、どんな時でも前だけを見据えて戦う眼差し、球児のそんな姿を見た私は、高校野球に携わる仕事が見たいと思うようになりました。幸い私は小さい頃から柔道をしてきたこともあり、体のメンテナン

スマッサージをすることはとても得意でした。インターネットで調べたり、実際に先輩に話を聞いたりして、スポーツトレーナーという仕事にとっても興味を持ちました。少しずつ勉強するようになり、新たな目標ができたことで、それからは、学校がもっと楽しく、苦手だった勉強も時には難しいと感じることもありますが、先生方一人ひとりが熱心に教えてくれ、最近では、勉強がとても楽しくなりました。昨年11月には生徒会書記となり、いろいろな行事の計画進行、学校生活のマナーなど、生徒会のメンバーと話し合うことが楽しいばかりで、こんなにも学校生活が楽しい、充実している、と感じたことはないくらい、笑顔で過ごすことができていると思います。もし福智高校通信制に来ていなかったら、と考えると、一つ一つが奇跡のようで母親には感謝しかありません。

あんなに嫌いになった柔道も母親に少しでも恩返しをしたいと思い、手術を受けることを決めました。4月に手術を終え、辛かったりハビリも乗り越えました。約半年ぶりの柔道の練習は決して楽なものではありませんでしたが、もう二度と自分自身に負けたくない、その思いを胸に、投げられても何度も何度も立ち上がり、相手に向かっていきました。その結果、8月の全国大会に出場し、団体戦3位という大きな結果を残すことができました。怪我をしてから柔道をすることを諦めていた私に、大会への出場を勧めてくれた先生方、どんなに辛いときでも力のご飯を作ってくれたり、汗でびしょびしょになった柔道着を洗ってくれたり、いつも背中を押してくれた母親へ、全国3位という結果でお土産として持ち帰ることができて本当によかったです。

私が通信制に来て変わったことは、何事にも前向きになれたことだと思います。卒業後は、怪我をした高校球児も含め、様々な人達のサポートをすることで、一人でも多くの人を笑顔にできるスポーツトレーナーになれるよう、専門学校への進学を希望しています。ですが、正直なところ人間関係でうまくいくだろうか、辛いことがあってもくじけずに前を向いて乗り越えられるだろうか、という不安はたくさんあります。それでも、変わらなければいけないのは自分自身で、私にとって最大の敵も自分自身です。今までどんな時も隣で支えてくれた母親、「頑張っ」と背中を押してくれた友達、また柔道をすることを勧めてくれた先生方に、本当の恩返しができるよう何事にも全力で精進していきます。